

2022年10月31日

各位

会社名 株式会社日本エム・ディ・エム  
 代表者名 代表取締役社長 大川 正男  
 (コード番号 7600 東証プライム)  
 問合せ先 I R室 棟近 信司  
 (03-3341-6705)

## 2023年3月期第2四半期連結業績予想と決算値の差異、 及び通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

2022年4月28日に公表した2023年3月期第2四半期連結業績予想と本日公表の決算値に差異が生じたので、下記1. のとおりお知らせいたします。また、2023年3月期通期連結業績予想を修正いたしましたので、下記2. のとおりお知らせいたします。

### 記

#### 1. 第2四半期連結業績予想と決算値の差異

(1) 2023年3月期第2四半期連結業績予想と決算値の差異 (2022年4月1日～2022年9月30日)

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	親会社株主に 帰属する 四半期純利益 (百万円)	1株当たり 四半期純利益 (円)
前回発表予想 (A)	10,200	1,100	1,050	700	26.53
決算値 (B)	9,989	927	916	721	27.35
増減額 (B-A)	△210	△172	△133	21	
増減率 (%)	△2.1	△15.7	△12.7	3.1	
(ご参考) 前期実績 (2021年3月期第2四半期)	8,858	1,058	1,042	1,003	38.03

#### (2) 差異の理由

売上高は、日本国内は堅調に推移したものの、米国において外部ベンダーを含むサプライチェーン上の製造問題が発生したことにより、米国の新規顧客との取引開始時期を一時的に延期したこと、また、既存顧客については、医療スタッフ不足により症例数が減少した医療施設があったことや、人工膝関節置換術におけるロボット手術などの浸透、競合他社による人工股関節新製品投入などの影響による厳しい販売競争により、前回予想を下回る結果となりました。なお、既に米国における新規顧客へは製品を供給し取引を開始しております。また、上記米国売上高は、前年同四半期を上回ったものの予想を下回り、自社製品売上高比率が予想を下回ったことや、想定

を超えた急激な円安の影響により売上原価率が予想より悪化したこと及び米国での費用（円換算後）が増加したことなどに伴い、営業利益、経常利益も前回予想を下回る結果となりました。また、親会社株主に帰属する四半期純利益は、日本国内において受取補償金や事業損失引当金戻入額を特別利益に計上したことなどから前回予想を上回る結果となりました。

## 2. 通期連結業績予想の修正

(1) 2023年3月期通期連結業績予想の修正（2022年4月1日～2023年3月31日）

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	親会社株主に 帰属する 当期純利益 (百万円)	1株当たり 当期純利益 (円)
前回発表予想 (A)	22,000	2,800	2,700	1,850	70.12
今回修正予想 (B)	21,800	2,000	2,050	1,450	54.96
増減額 (B-A)	△200	△800	△650	△400	
増減率 (%)	△0.9	△28.6	△24.1	△21.6	
(ご参考) 前期実績	19,193	2,661	2,591	2,135	80.95

### (2) 修正の理由

円安が大幅に進んでいる現状を鑑みて、下半期の想定為替レートを1USドル128円から同150円に修正しました。また、第2四半期の業績結果を踏まえ、日本国内売上高は引き続き堅調に推移すると想定しているものの、米国においては、既存顧客の医療スタッフ不足による症例数減少、人工関節置換術におけるロボット手術などの浸透、競合他社の人工関節新製品投入などの影響による厳しい販売競争が一定程度予想されること、また、下半期の想定為替レートを円安に修正したことにより、売上原価率の悪化及び米国での費用（円換算後）が増加することが見込まれることから、売上高、営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する当期純利益の前回予想を修正いたします。

以上